

第6回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成 29 年 8 月 22 日(火) 13:30～16:30	
開催場所	薩摩川内市役所 604 会議室	
出席者	委員	外菌会長、田島委員、石原委員、小平委員、白男川委員
	事務局	行政改革推進課長、同課長代理、同課職員
	傍聴者	なし

□会次第

開会	主管課・室
1 開会	
2 補助金等評価	
(1) 商工会議所等指導事業補助金	商工政策課
(2) 商店街アーケード施設維持管理費補助金	商工政策課
(3) 高速船甌島活用イベント推進補助金	交通貿易課
(4) 外国人留学生奨学金	交通貿易課
(5) 国際交流協会補助金	交通貿易課
(6) かごしま川内貿易振興協会補助金	交通貿易課
(7) 地区コミ・デマンド運行事業補助金	交通貿易課
3 閉会	

□議事

1 開会

○会長

(挨拶)

2 補助金等評価

(1) 商工会議所等指導事業補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 経営改善普及事業について、講習・研修会を集約するなど、もっと工夫して実施できないか。

●主管課 効率よく実施できないか商工会と協議したい。

○会長 補助金が平成 27 年度の 2, 200 万円から 2, 700 万円に 500 万円増加した理由は何か。

●主管課 補助金の増加分は平成 27 年度

から甌地域で 1 名、東郷地域で 1 名の計 2 名の県指導員が減ったことに伴う補てん分である。薩摩川内市商工会への補助金を平成 28 年度から 3 年間限定して 500 万円加算し、交付しているためである。

○委員 経営指導員、経営支援員からの相談はどのような内容か。

●主管課 経営全般に係る相談が一番多く、税務関係、社会保険等の労務関係が主な相談内容である。

○委員 成果指標の設定について、新規に創業した事業所数などがよいのではないか。

●主管課 補助金の効果としては、中小企業を訪問し、実施した相談及び指導件数を事

業実施によって測定している。

○委員 川内商工会議所と薩摩川内市商工会の担当地域は。

●主管課 高城を除く旧川内地域を川内商工会議所が、それ以外の地域を薩摩川内市商工会が担当している。

○委員 市内で新規に創業した件数はどれくらいあるのか。

●主管課 平成26年度から始まった創業スクールの受講者でいうと、95名が受講し、27人が創業している。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○委員 経営改善普及事業について、講習・研修会をもっと効率よく実施できないか工夫すべき。

○委員 成果指標の設定について、新規創業件数などを追加するよう検討すべき。

○委員 地域活性化等に関する事業の中で、各種イベント開催は、地域活性化に寄与している。このため、各種イベント参加者数等も成果指標としては妥当ではないか。

○会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(2) 商店街アーケード施設維持管理費補助金(書類審査)

(書類審査)

○会長 ソフト事業も絡めた補助を検討されたいとの前回評価を受け、太平橋通り商店街振興組合が中心となって積極的に事業展開していることを評価したい。

○委員 太平橋通り商店街は昔と比べると

空き店舗が増えている。今すぐということではないが、将来の課題として、事業者の減少に伴い、負担が増える可能性があるのではないか。補助拡大を含め、検討すべき。

●事務局 中心市街地では空き店舗に入居している事業者も見受けられる。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

2 補助金等評価

(3) 高速船甕島活用イベント推進補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 高速船甕島活用イベントとは具体的にどのようなものか。

●主管課 平成28年度実績は2団体で、花ごよみというブライダルサロンが実施した「婚活クルーズ」と観光物産協会が実施した「海の日親子交流会」である。

○会長 平成29年度は予算額を減額したとのことであるが、その理由は。

●主管課 甕島航路については、イベント等を開催できる不定期航路事業を年3回実施してよいという海上運送法で規定がある。高速船を運行している甕島商船との調整において決定したものである。

○委員 年3回というのはどのようにして決まるのか。回数が少ないと感じる。

●主管課 甕島航路は国から補助をもらって運営している航路、いわゆる赤字航路である。そのため、通常航路以外で使用する回数は3回までと国から定められている。

○委員 平成27年度に創設された補助金とのことである。これまでの実績と今後の

予定はどのような事業か。

●**主管課** 平成27年度は1件で婚活事業、平成28年度は2件で婚活事業と親子交流事業を実施した。平成29年度は1件予定している。すべてホームページ上で提案公募し、選定を行っている。

○**委員** 甌島航路の待合所や駐車場周辺の用地はかなり広い。軽トラ市など、にぎわいをつくる地域イベント事業等へ活用できないか。

●**主管課** 県有地の漁港用地がほとんどで基本的には地域イベント等へは活用できない。ただし、年2回開催しているにぎわい祭りなどの例外はある。

○**委員** できるだけ実績が上がった時点で実績を公表してほしい。

●**主管課** 特に、婚活事業はプライバシー等の問題もあり難しい。

○**会長** 成果指標の設定について、イベントの参加者数とすべきではないか。甌島航路の利用者数を目標とする場合は、補助金交付要領改正を行うべきではないか。

○**委員** 2年連続花ごよみというブライダルサロンが補助を受け、イベントを実施したとこのことである。今後も花ごよみを予定しているのか。

●**主管課** ホームページ上で提案公募し、選定を行っている事業であるので、他の事業所が選定される可能性はある。なお、今年度も花ごよみ1件のみ提案を受けている状況である。

○**委員** 甌島航路の利用者数の目標値の22万人。他にはどのような事業があるのか。

●**主管課** 観光・シティセールス課で実施している甌島に係る様々な事業、市内の小学校4年生が一日遠足で甌島を訪れるアイランドウォッチング事業など、市全体で甌島を盛り上げていこうと考えている。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 成果指標の設定について疑問がある。長期的な目標として、甌島航路の利用者数の22万人は分かるが、イベントの参加者数とすべきではないか。

○**委員** 高速船甌島がより親しまれる船になるよう活用イベントのみでなく、甌島航路に附随するイベント事業等へ補助を展開できないか検討すべき。

○**会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(4) 外国人留学生奨学金

(主管課説明後、質疑・協議)

○**委員** 平成28年度の外国人留学生奨学金の支給を受けた人数は何名か。

●**主管課** 8名である。内訳はベトナム人が1名、台湾人が7名である。

○**委員** 月1万円の奨学金で鹿児島純心女子大学の授業料を賄っているのか。

●**主管課** 奨学金を受けている学生は、大学から選考された成績優秀な学生で、交換留学生である。交換留学制度では相手校の授業料は免除となっている。授業料の補てんとしてではなく、家賃・光熱費など経済的に苦しいとの理由で支給している。

○**委員** 市からの奨学金の他に国県等からの助成金はないのか。

●**主管課** 数年前の状況であるが、大学から3万円、国から1万5千円の助成があると聞いている。

○**委員** 申請があった学生すべてに対して、奨学金を認めているのか。

●**主管課** お見込のとおりである。鹿児島純

心女子大学に推薦をいただき、市で最終的には審査・決定を行っている。

○委員 奨学金を受けた学生のその後の動向で、薩摩川内市に就職した学生はいるのか。

●主管課 薩摩川内市に就職した学生はいない。基本的には自国に戻って自国の日本関連企業等へ就職していると確認している。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

2 補助金等評価

(5) 国際交流協会補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 海外交流派遣助成事業の実績がないとのことであるが、その理由は。

●主管課 例年、中国の常熟市及び韓国の昌寧郡と実施している事業である。平成28年度は韓国の昌寧郡へ市民海外交流派遣事業を実施予定であったが、鳥インフルエンザや口蹄疫が流行し、派遣の時期を逸したためである。

○委員 市民レベルでの交流はとても大事であると感じている。今後も有効活用してほしい。

●主管課 過去には語学講座の受講者による市民交流などもあった。平成27年度は川内大綱引保存会が交流を実施した。

○委員 薩摩川内市国際交流協会の会員数はどれくらいか。

●主管課 会員の状況は、個人会員が356口、法人及び団体会員が59口。ほとんど

が個人会員である。

○委員 自主事業に語学教室、交流・体験事業、国際理解・異文化理解事業などがあるとのことであるが、語学教室の受講者数が少ないように感じる。その理由は。

●主管課 語学教室の受講者数が少ないことは課題の一つである。受講者数を増やす取組を実施していきたい。

○委員 運営費補助金の根拠は。金額はどのようにして決めているのか。

●主管課 事務局職員2名分の人件費相当分である。

○会長 平成28年度から平成29年度にかけて補助金が増加している理由は。

●主管課 平成29年度予算額は8,028千円で、増えた分は友好都市来日団受入事業分である。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 成果指標の設定について疑問がある。補助金交付要領にある協会会員数とすべきではないか。併せて、協会の加入促進を図るべきである。

○委員 運営費補助金の人件費相当分とのことである。自主事業を更に充実させ、かつ経営努力を図っていくべきである。

○会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(6) かごしま川内貿易振興協会補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 川内港の概要をご教示いただきたい。

●**主管課** 川内港は昭和45年5月に重要港湾に指定。県本土では鹿児島港、志布志港、川内港の3つのみ指定されている。コンテナ数（TEU）を増やし、外国との貿易を促進することが一番の目的である。市としては、川内港の利活用と貿易振興を図ってきたいと考えている。

○**委員** どのくらいの大きさ船が入港できるか。

●**主管課** 3万トン級、中越パルプのチップ船が一番大きい。志布志港と比べると港の規模が小さい状況にある。

○**委員** 川内港の利活用と貿易振興のための具体的な方策は。

●**主管課** 港自体が手狭になってきている状況にある。唐浜埠頭に1万トン級の大型船が入港できるように、国県に要望している。市としては、引き続き貿易振興を図り、コンテナ数を増やすためにこの補助金を利活用していきたい。

○**委員** 貿易振興協会はどのようにして貿易事業者に分配しているのか。また、すべての貿易事業者が補助金をもらえるのか。

●**主管課** 川内港を利用した貿易事業者が直接貿易振興協会に申請し、貿易補助金として交付を受けている。利用促進を更に進めたいと考えているため、申請したすべての貿易事業者に交付できるよう努力している。

○**委員** 他の自治体はどのような状況か。同じように行政が補助金を支出しているのか。

●**主管課** 補助割合や補助金額の違いはあるが、各自治体とも同じである。志布志港や八代港など、補助金の上限を定めていない自治体もあり、今まさに地域間競争の時代が到来していると感じている。貿易振興協会と連携し、川内港の更なる利用促進を図りたいと考えている。

（まとめ）

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「拡大」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**委員** かごしま川内貿易振興協会と連携し、川内港の更なる利用促進を図りたい。

○**会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(7) 地区コミ・デマンド運行事業補助金

（主管課説明後、質疑・協議）

○**委員** 地区コミ・デマンド運行事業を実施している地域はどこがあるか。

●**主管課** 平佐東地区のみで実施している。

○**委員** くるくるバスなどコミュニティバスが“空バス”として走るより、とても効率的であると思う。

○**会長** 地区コミ・デマンド運行事業は地域内の最寄りのバス停までの乗り継ぎのための事業。デマンド運行事業が有効活用できる地域は限られているのではないか。

●**主管課** お見込のとおりである。コミュニティバスは空バスが多いとの意見であるが、時間帯によっては、多い時間もある。また、平均1便10名程度の乗車率である。

○**委員** 今回の補助金で行っている事業とは別に、地区内を運行する乗合事業があるとのこと。どのような運用形態となっているのか。

●**主管課** 市が運行事業者と委託契約をして実施している事業である。

○**委員** 実施地域は。

●**主管課** 入来、東郷、祁答院地域で導入し、樋脇地域では導入予定である。平成22年7月に入来で開始し、旧4町地域へ拡大している。

○**委員** 川内地域では検討しないのか。

●**主管課** 川内地域では利用者が多いため、積み残しがある可能性があり、導入は難しいと判断している。そのため、平佐東地区内のようにデマンド運行事業を展開している。

○**委員** 地区コミュニティ協議会の負担もあるのか。

●**主管課** 地区コミュニティ協議会の負担がある。平成２８年度実績でもある程度負担はいただいている。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

3 閉会

○**事務局**

(挨拶)